

発 言 通 告 書 要 旨 （１枚目／全３枚）

氏 名 稲垣 清也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		子ども・高齢者の移動支援実証事業について 実証事業の内容について 先日行った議会報告会のグループワークにおいても、公共交通についてのご意見や提案を多くいただいた。 今回の補正予算において、期間限定ではあるが乗合タクシーの定額制などを含めた大胆な実証事業の予算が計上されている。本実証事業の内容及び目的、期待している効果について問う。	
	(2)		現在の乗合タクシーの利用状況について 議会報告会での意見の中で、「そもそも乗合タクシーを知らない」、「予約がとりづらい」、「予約方法がわからない」などのご意見をいただいた。 現在の乗合タクシーの予約状況（混み合い状況）や、電話とアプリの予約割合、運行台数確保の見通しや新実証事業の周知方法について問う。	
2			加賀市版スマートパス事業について 先の質問の乗合タクシーもそうであるが、本市では顔認証技術を活用し、マイナンバーカードを持ち歩くことなく市内の様々なサービスを利用できるように取り組んでいる。現在は加賀市医療センター、かがにこにこパーク、避難所、加賀市イノベーションセンターで利用している。イノベーション推進部長は本年当初議会においても、民間企業の商業施設などにも導入の働きかけをし、市内全体への普及に取り組むことで、規模を拡大し運用コストの低減を図りたいと答弁されている。 そこで、顔認証システムを三温泉の総湯に導入することを提案する。三温泉の総湯の利用者は、定期利用券保有者だけで約2,500人であり、共通基盤の規模拡大には最適であると考ええる。また、定期利用券や湯札を持たずに利用できることは利用者の利便性も向上し、市民がイノベーション技術を実感できる機会を創出することにも寄与できると考えるが、所見を問う。	
3			スマートサービス構築事業について スマートサービス構築事業として補正予算に9,000万円が計上されている。前段質問の顔認証システムにも一部関わりがあると思うが、本事業の目的や概要、目指すところの最終形を、スケジュール感も含めて問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2 枚目／全 3 枚)

氏 名 稲垣 清也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4	(1)		新教育長の所信について問う 教育長としての基本姿勢とビジョンについて 加賀市の教育行政を担うにあたり、どのような理念・信条をもって臨まれるのか。また、教育長として目指すべき加賀市の教育の将来像をどのように描いておられるのか。加賀市が進めている学校教育ビジョン「BE THE PLAYER」について、加賀市へいらっしゃる前のイメージと、赴任されて2か月経過した現在の感想も含めて尋ねる。	
	(2)		教職員や地域との関わりについて 前教育長の本年3月定例会の答弁では、「加賀市学校教育ビジョン一丁目一番地の学びの改革について、なるべく教育現場に主導権を渡し、彼らこそがビジョンの立役者となるよう取り組んできた」とのことであった。教職員の多忙化解消は喫緊の課題であり、若い人材の確保・定着にも直結する。これらに対する認識と取組方針について尋ねる。 あわせて、加賀市学校教育ビジョンを進めるにあたっては、地域の理解も欠かせない。また学校部活動の地域移行に関しても地域の協力は欠かせないと考えられる。地域住民や保護者との協働、また地域資源を活かした教育の在り方についても所見を問う。	
5	(1)		小規模・地域共生ホーム型CCRC構想について 本構想の本市の捉え方について 本市においても高齢者の割合は年々増加し、将来的に従来の高齢者向け施設（特別養護老人ホームや有料老人ホームなど）では対応しきれない状況が考えられる。 政府は先日、地方創生2.0基本構想を発表した。そのパッケージの中で、「小規模・地域共生ホーム型CCRC」の整備を進め、高齢者施設等を小規模シェアハウス等へ転用・活用するなど、全世代・全員が活躍する「ごちゃまぜ」のコミュニティーづくりへの支援を進める方針を発表した。 そこで、このような施策の背景にある問題点、課題について本市ではどのように捉えているのか。この政府の方向性は全世代を意識した加賀市のライフデザイン推進の考え方と一致しているのではないかと思うが、所見を問う。	
	(2)		現在推進中の事業への活用について ライフデザイン推進事業の居住支援事業において松が丘や大聖寺で先行的に進めようとしている空き家対策や住み替え支援に対し、この国の施策を活用することができるのではないかと考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 （ 3 枚目／全 3 枚）

氏 名 稲垣 清也

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
6	(1)		スワトン保育園と片山津中学校へのアクセス道路について 片山津中学校正門前坂道の拡幅について（持込資料N o. 1、2） 令和3年のスワトン保育園開園前に、地域や保護者会から保育園へのアクセス道路の整備について、いくつかの要望があった。 片山津中学校正門前の坂道の消雪設備の整備については、大変ハードルが高かったと思われるが、市道C第245号線消雪施設整備事業にて予算化がされて前向きに進めていただいており、早期の工事完了を期待している。 坂道の道路拡幅については、側溝蓋を整備し広くはしていただいたものの、坂道での車の交差時に自転車を押した子供達が脇を上るには未だ幅が不十分ではないかと考える。道路の拡幅（歩道の設置）及び篠原町側から坂道への進入のしやすさの向上について、所見を問う。	
	(2)		回遊性を向上した出入口の整備について（持込資料N o. 3、4） スワトン保育園側から坂道へ下る方向が優先になるので、送迎のために中学校へ進入する自動車は上り坂で一旦停止することになる。本年2月の積雪時や路面が凍っているときには、一旦停止した自動車のタイヤが上り坂でスリップして発進できなくなるような事態が何度も発生し、自動車が連なり大変危険であったとのことである。 そこで、平時における回遊性、安全性の向上も考慮し、片山津野球場前の直線道路から片山津中学校に入ることができる自動車専用進入口を新たに設置してはどうかと考えるが、所見を問う。	